
彼を信じて私自身が選んだ人生にこんな悲しい結末が

明枝

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

彼を信じて私自身が選んだ人生にこんな悲しい結末が

【Zコード】

Z5461F

【作者名】

明枝

【あらすじ】

20歳で結婚し23歳で子供に恵まれ元旦那に店の経営を勧められ私の第二の人生がお店で始まりお店で終わった。現在さみしい、どん底生活彼を忘れられず後悔と憎しみと苦しみ

(前書き)

彼と知り合う2年前に離婚し、子供にさみしい思いをさせながら、お店を頑張っていました。彼と知り合い彼を信じお店を閉めて3人幸せな生活を送っていました。ずっと彼と一緒にいられると信じて

楽しくてそして忙しい疲れきった毎日を送っていました。
お仕事上いろいろな人と出会いがありました。

今日はどんな1日が始まり1日が終わるのかなあ

あー、今日も1日無事終えたあ

今日は初めてあつたお客様氣を使つた。緊張したなあ相変わらずの
初めてのお客様との会話 もうすぐ10年過ぎよう仕事なのに変わ
らない対応また来てくれるかなあ。

2・3週間が過ぎようとしていた頃

いらっしゃいます。

あっ、お久しぶりです。今日はお一人で、何呑みますか？

とても話しやすくすっかり仲良し 気楽に応対もできる私より5つ
年上話しもとても合う あつという間に閉店時間

ねえ、ママ俺一人暮らしの子も一緒にお茶しに来ない

私はその時疲れて帰りたかつたけどなぜか、断れず彼の家に女の子
連れて寄つた

男の一人暮らしとは思えないほど部屋は綺麗に何もかもが整つてい
た。

7月なのにまだ寒かつた。

それから週末には来てくれた。

私は週末が楽しみだつた、必ず女の子も一緒に店を閉めてからの彼
の家の豚しゃぶが決まりになつていた

3度目の豚しゃぶには女の子は用事で来れず私一人誘われたなぜか、嬉しかった
ママだけじゃ誘つても来てくれないと思つていたと私が一人でも行つたことにとっても喜んでもらつた。

その日から私も彼も同じ気持ちに気がついた。

9月いつの間にか暑く薄着の時期もとうに過ぎていた
あつという間に夏が終わりクリスマスお正月と一人で過ごしていた。

お互いバツイチ彼の気持ち希望そして彼の何もかもを疑うことなく
店を閉めて子供を連れて、2月には3人の生活が始まった。

楽しい3人の食事

会社が近かつた彼はお昼には戻つて一人で食事した。

朝の3人の朝食も楽しい

彼が会社に行くときは必ず玄関でキスし見送つた。

エレベーターに彼が乗つたら、私はベランダにそして車に乗る彼を見送つた。

彼は私が車が見えなくなるまで見送つている私に必ずブレーーキランプ5回点滅してくれた。

時にはもちろん口喧嘩もした。けど今まで生きていた年月の中で一番幸せを感じていた。

あんな辛い別れが待つていようなんて思いもよらず。

沖縄旅行、ディズニーシー映画も観に行つた。

彼が仕事の時以外いつも一緒だった。

とうとう悲しい別れが近づいていた。

知り合つて1年2ヶ月

たまたま、些細な口喧嘩をした。

「田田の番彼は子供にじめんと一言黙つて出ていった最後の言葉となってしまった。

携帯が翌朝方2時頃、繋がらなくなつた
警察に捜索願いを出しにいつた。

毎朝ブレー キランプ5回して会社に行つていた車とともにに行つてしまつた。

捜索願いを出した二田田の朝方4時に冷たくなつて発見され警察に行つた。

なんでなんで口喧嘩で死んでしまうの?
私にはわからない。

わかつたことは、離婚していると言つていた彼は、
離婚調停中の身であつた。

3人で幸せと思っていたのは私と息子だけで彼は幸せではなかつたのかな?

なぜ、嘘ついていたのか、それさえわからない。

私と息子はすぐに3人で住んでいたマンションを追い出された。
多分私も息子も彼のいなくなつたマンションには辛く苦しくて一日たりともいられる精神状態ではなかつた
彼がいなくなつて一番の犠牲者は私の息子

ありがたかったのが息子はなんとか、悲しみから、抜け出し自分を取り戻し、専門学校に通っています。

私といつたら、いまだに自分を取り戻せず精神科に通い薬ばかり飲んでます。

悲しみ、辛さ、寂しさ、怒り、憎しみから、気持ちが一寸も離れず・
・

最初は後追いしましたが、死ねませんでした。

忘れてくても忘れない彼について本当に幸せだったなんです。
私と息子は彼に捨てられたんです。

でも彼が恋しい、逢いたい優しい彼いつも明るかつた彼汗いっぱい
かいて作ってくれた夕食

亡くなる2週間前3人でキャンプにも行きました。
彼が来年も来ようねって
写真も撮りましたがまだ現像してません。

この小説はノンフィクションです。

読んでくれたかたありがとうございます。

小説など書けるほどの能力は全くありません。

作文さえ上手く人に伝える様に書けないので、上手く皆さんに伝わ

ったか心配ですが・・・

これを気に、自分を取り戻し、息子のために頑張つて生きていこう
と思っています。がんばります。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n5461f/>

彼を信じて私自身が選んだ人生にこんな悲しい結末が

2010年11月2日03時55分発行